放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年4月1日　　事業所名　放課後等デイサービス 風さん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	・2部屋を使用、空間を分けて利用している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	・1日の利用者数：スタッフ数＝2：1以上を配置しているので問題なし。スタッフごとに担当を設けて支援内容について考え共有している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	入口や部屋同士の段差、車いすが入れるトイレなどの設備有。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	無駄な業務を削減し、現場では児童の情報を共有する時間を設け支援内容などを話す時間を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	年一回のアンケートを実施、保護者の以降に寄り添えるように改善を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページ上に公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・研修には業務として参加できるように配慮している。 ・他のデイとも合同での研修なども参加している。	
適切な支	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	・契約時、半年に一回保護者懇談を行い都度、アセスメントを行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	・利用者様の家庭・学校での様子を把握するためのヒヤリングシートを独自に用意している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	事業所単位で活動プログラムの作成を行っている。 ・また、同企業の他デイと合同の活動も取り入れている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節の活動・他事業所と合同プログラムも取り入れている。 また、子どもで話し合ってどのような活動にするか話をする時間も設けている。	

援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	時間に合わせた活動プログラムを立てている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼後に行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援後は送迎などで時間がないため、次の日の午前中に行えるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	提供記録・業務日報に日々の報告内容を記載している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	モニタリングを行い、懇談の際に引き続き支援を行うか、支援を変更するか話している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	80%	20%		ガイドラインを把握していない職員もいるため内容の再度確認を行う。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	子どもごとに担当を設けて、その職員が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%		体制は整えているが、実際にその場面になっていない為実際に起きた時に対応できるようにしておく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		相談員とは連絡は行うが、保育所や幼稚園等とは連絡が取れていない。 相談員や保護者から情報を共有してもらいよりよい支援ができるようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	保護者様から許可を得て可能な限り共有している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		現状は行っていない為、コロナも収まってきたので行っていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	20%	80%		

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	個別懇談会を半年に一回行っている。 また、担当者会議も行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時の説明や別に質問があれば対応している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	半年に一回の懇談会以外に希望があれば家庭訪問や別途懇談を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		コロナ禍のこともあり、行えていけない為今後は実施したいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情があった際は迅速に対応を行い、職員間で共有を行い再度、同じことが起きないようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月スケジュールと会報を保護者様にお渡ししている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	事業所の場所で別での運営ではあるが子ども食堂を開催している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	紙媒体で保護者にお渡ししている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止委員会の設置、半年に一回の研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	指示書に基づき対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	自社内での委員会で集約･研修で共有を行っている。	